



## 幸せの意味

副支部長 皆川 宏志

(鳥屋野中 昭六十三年度)

私たちは子どもの豊かな未来と幸せのために学校・園という職場で働いています。

専門性を高めたり、人脈を広げたりして「この仕事を選択してよかった」と考えることは何よりの幸せであると考えています。

「幸せ」と感じる人は感じない人よりも生産性は30%高く、創造性は3倍になることが証明されています。また、健康で平均寿命も七、十年長くする効果があるそうです。

このいいことだらけの「幸せ」は「地位財」など他人と比べら

かをした、誰かを喜ばせたという気持ちが高く、様々な人と交流をもっている。

### ③ 「なんとかなる！」

自己実現や成長、他者とのつながりを育む場合にも、前向きで楽観的にチャレンジしている。

### ④ 「ありのままに！」

周りの目を気にせず、自分らしく生きている。周囲の人と仲良くすることも大切だが、それが人のペースに合わせてばかりになってはいけない。人と仲良くしつつも、同時に自分らしさをもつことも必要である。

この項目は、要因を満たせばだれもが幸せになれるものだけです。

「子どもの幸せ」という抽象的な目標の捉え方は人それぞれでもよいのですが、学術的に多変量解析された分析結果を踏まえて科学された「幸せ」を知ることが大切です。

子どものよさを認めて「やってみよう！」という意欲を育む。

各校園の教育課程はこの4つの因子にあふれていて、子どもの豊かな未来に確かなつながっています。

ときわ会は今年度十月一日に開催された創設一五〇周年記念事業において、「志」の継承と未来への新たな歴史がスタートしました。教育研究発表会もハイブリッドで開催され、会員の「もつと学びたい」に応える会となりました。

新潟中央東支部の活動も会員の皆さんの「幸せ」につながるように計画・開催されています。この場を借りて、これまでとこれから開催される事業における各委員会の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

これらの事業も私たち会員一人一人が「やってみよう！」「ありがとう！」「なんとかなる！」「ありのままに！」因子をもつこととでその価値が何倍にもなり、その経験が子どもに伝わると信じています。私ごとときわ会に所属している理由はここにありません。

### ① 「やってみよう！」

将来(人生)の大きな目標や日々の目標をもち、それを実現していくための自分の強みがわかっている。また、強みを生かすために学び、成長しようとしている。

### ② 「ありがとう！」

人に感謝して、人のために何